

空気中のアスベストをはかっているの？

大阪市では平成元年から、空気中のアスベスト濃度をモニタリングしています。大気環境濃度は減少傾向にあり、昨年の「総繊維数濃度」は、**空気1リットルあたり0.13本**と十分に低い濃度でした。この値は、世界保健機関(WHO)の環境保健クライテリア※(1本~10本/リットル)に比べて十分に低い数値です。

※クライテリア：化学物質等が環境や人の健康にどのような影響を与えるかについて専門家が評価し、まとめたもの

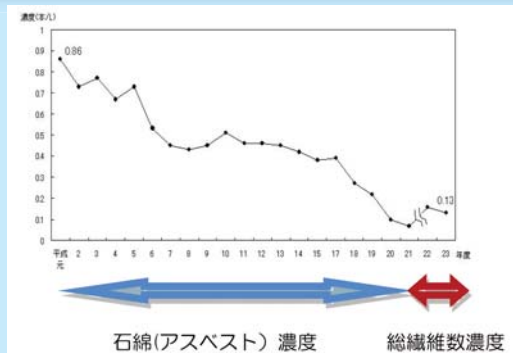
最近の傾向は？

平成22年、環境省のアスベストモニタリングマニュアルが改訂され、これまで「**石綿(アスベスト)濃度**」として測定してきた分析法は、「**総繊維数濃度**」を測定するものになりました。

「**総繊維数濃度**」にはアスベスト以外にも、無機繊維(ロックウール、ガラス繊維など)、有機繊維(衣類の繊維など)を含んでいます。なぜ、「**総繊維数濃度**」に変わったのでしょうか？

6種類あるアスベストのうち、従来のマニュアルでは厳密には1種類(白石綿)しか対応できていませんでした。これまで、アスベストの主要な発生源は、白石綿製品を取り扱う工場だったのですが、最近では、白石綿以外のアスベストを含んだ建物の、解体工事からのアスベスト飛散が報告されています。

そのため、測定に見落としがないように、「**総繊維数濃度**」として空気中の繊維状粒子を測定し、その結果、空気1リットルあたり1本を超える濃度だった場合、電子顕微鏡を使って、より詳しく分析することになりました。



空気中のアスベスト(白石綿)



空気中のアスベスト(茶石綿)

環境科学研究所では

大阪市内の空気中アスベスト濃度・総繊維数濃度を測定しています。

また、大阪市に届出のあったアスベスト除去工事のうち、環境局からの依頼を受けて、敷地境界のアスベスト濃度を測定して、空気中濃度が基準以下であることを確認しています。

日本でのアスベスト使用建物の解体数のピークは2020年から2040年頃と予想されており、大阪市の環境と市民の健康を守るため、これからも環境科学研究所ではアスベスト調査に取り組んでいきます。

(都市環境グループ 古市裕子)